

あとがき

この健診ガイドブックは、現時点における、わが国の最も高いレベルの子育て支援および乳幼児健診に関する指導書といえよう。この本は、健診に関するすべての項目を網羅し、そして同時に最も新しい知見が紹介されていると同時にチェック版も編集されて、その内容が要領よくまとめられているので、マニュアル的な機能を兼ね備えている。まず第1章の、現代における心身にわたる乳幼児保健の進歩にもとづいた健診のあり方などが記述されているので是非とも参考にしたい。そして、とくに各論的な章に関しては通読することよりも、むしろ索引を利用して、必要に応じて辞書的に読まれて戴く方が利用価値が高まるものとする。

日本小児科学会、日本小児保健協会、日本小児科医会など、いわゆる三者協による日本小児科連絡協議会の乳幼児健診に関するワーキンググループが、前川喜平（東京慈恵会医科大学名誉教授）を代表として、8名の世話人、29名の執筆者によって「小児科医の勧める子育てに役立つ健診ガイド（3～4か月編）」が発刊されたのは1998年であった。当時、わが国の乳幼児健診の質の向上を目的として、前川喜平先生のご尽力により日本乳幼児健診研究会が立ち上げられて、アクティブな乳幼児健診の研究者らの活躍によって、特に「魅力ある個別健診」のあり方について熱心に討議されたことが思い出される。

さらに、2年後の2000年にその続編として「心と体の健診ガイドー乳児編一」が刊行されたが、特に本書の問いかけ文例や、子育てアドバイスヒントなどは健診を受ける保護者の立場を顧慮した記述として内容の質が高く好評であった。

そして今、さらに10年を経過したが、この間のわが国の小児保健に関する問題は小児虐待の防止を含めた育児支援や、発達障害の問題など多岐にわたり、それに対応した健診のあり方が問われるようになった。この度、斯界の第一人者の平岩幹男先生を中心として、数人の世話人とともに、多数の新たな気鋭の執筆者によって刊行された。本書が小児科医ばかりでなく保健師、看護師をはじめ乳幼児健診関係者に役立って、小児保健の向上に資すれば幸いである。

平成23年11月

松本小児科医院 松本壽通